

次世代につなげる森林づくり

R6.11.26 NO.53 号



～地域林業の発展を目指して～

林業成長産業化構想技術者育成研修を開催(令和6年11月12～15日)

「林業成長産業化構想技術者育成研修 (ITC 研修)」の四国ブロック研修を、自治体、民間林業事業者、国有林職員の合計15名が参加し3班に分かれてのグループワーク形式で開催しました。

この研修は、林業成長産業化に資する技術力の向上を目的に、林道・路網設計ソフトや森林資源を把握する地理情報システムのICT等の最新技術を活用して、森林資源や地形の把握を行い、効率的な林道整備計画や地域の特性を考慮した森林整備計画の構想を検討・作成するものです。

今回は、高知県中土佐町にある国有林とそこに隣接する民有林を演習地として選定し、およそ1,100haのこの森林について、全体構想を踏まえつつ、10～20年先を視野に入れながら、林業専用道計画(10年分)と森林整備計画(5年分)を策定し、研修最終日に、地元(中土佐町)の林務担当者に向けたプレゼンテーションを行うことを目指して実施しました。

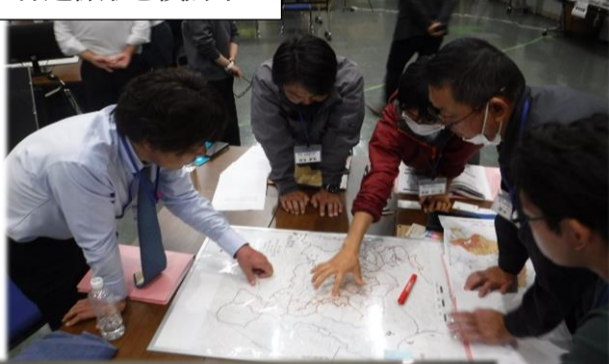
1日目は、森林総合研究所四国支所の大谷先生から「地域特性に応じた森づくりの構想」として、森林の目標林型やニホンジカによる森林被害についての講義を受けた後、演習地の概要を確認したあと、「QGIS」(地理情報システム)や「FRD」(林道・路網の設計ソフト)等のツールを活用して林道路線の線形を検討しました。

2日目の午前中は、中土佐町の新道山国有林内で、ドローンを使って、森林資源状況の把握や路網設置の可否を確認した後、森林整備課専門官から、林道の勾配、令和4年度の災害復旧工事箇所についての説明を受けました。午後からは、喜代須山国有林に移動して具体的な森づくりの検討について、森林3次元計測システム「OWL」(地上波レーザー)で計測した調査データを参考に、森林現況を評価し、周囲の状況や森林の機能等を考慮しながら、各班で今後の森づくりについての検討結果をパネルにまとめて発表しました。

3日目は、プレゼンテーションに向けた準備として、再びFRDやQGIS等を活用し、前日の外業で得た情報をベースに演習地における森林整備計画や木材生産計画(5年分)及び林業専用道路網計画(10年分)を各班で独自の構想案として作成しました。

4日目は、各班で作成した演習地の林道・森林整備計画等の構想についての発表を地元中土佐町の関係者に向けて行い、そのあと活発なディスカッションが行われました。

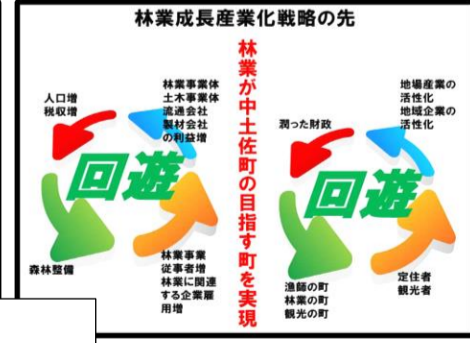
林道線形を検討中



森づくり検討を発表



QGISで事業範囲を検討中



～カツオ回遊プロジェクト～

森林整備計画の構想をプレゼンテーション

受講生からは「路網の長期的な配置計画は初めてだったので勉強になった」、「ドローンの映像と地図が合うよう訓練をして普段から活用したい」、「QGISの操作方法を学ぶことができたので、業務に活かしたい」、「森林総合監理士の資格を取得したい」等の感想が聞かれるなど、有意義な研修になりました。

この研修から学んだことや、感じたことをこれからの地域林業の成長産業化に活かして頂きますよう、受講生の今後のご活躍を期待しています。

各種試験調査・見学のお問い合わせは
四国森林管理局 森林技術・支援センター
☎ 088-821-2250
e-mail shikoku_gijyutu@maff.go.jp
(セキュリティ対策で@を*に置き換えています)

